

# 令和 5 年度 東京藝術大学 未来創造継承センター 芸術資源活用プロジェクト 実績報告書

※Word ファイルで提出してください。

プロジェクトの タイトル	日本コントラバス教育の源泉～長汐壽治の遺したもの～	
実施責任者 (申請代表者)	氏名	所属／学年／役職 (所属がない方は未記入)
	中村文音	
実施期間	2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日	
実施内容	<p>日本におけるコントラバスの歴史の重要人物である長汐壽治の教育について、大学史資料室に保管された資料にもとづく調査研究により明らかにし、長汐がレッスンで使用していた楽曲を実演する演奏会を実施した。まず実施した調査では、大学史資料室に保管されていた東京音楽学校の卒業演奏の記録などから、長汐の生徒たちが留学先のチェコのプラハ派のコントラバス奏者による作品（G.ラスカおよびF.ツェルニー）を扱っていたことを知り、プログラムに取り込んだ。また、現在日本のコントラバス奏者のほとんどが長汐壽治の系譜にあるが、そういった長汐の功績のみに着目するのではなく、何故このように長汐壽治の影響が圧倒的であるのかにも着目し、大学史資料室以外の資料も積極的に調査した。具体的には長汐壽治と同時期に活動した寺田日瑛三および紙恭輔（ともに東京藝術大学とは関係しない）を取り上げ長汐と比較し、長汐壽治の影響が現在まで強いのこっているのには長汐が教育者として熱心に活動していたことが理由に挙げられることを明らかにした。</p> <p>実施した演奏では前述したラスカとツェルニーに加え、長汐壽治の登場以前に活動していた日本人コントラバス奏者蘭廣虎に関連する作品も演奏した。</p>	
実績報告	<p>今回の調査研究から長汐壽治の功績および長汐が日本のコントラバス演奏に与えた影響の大きさについて明らかにすることができた。特に、日本人コントラバス奏者のほとんどが長汐壽治の系譜にある理由には、長汐が教育者として熱心に活動していたことが挙げられることを明らかにしたことによって、本プロジェクトのテーマであった「継承」の大切さと意義について問うことができたのは、自分自身にとって大きな成果であった。</p> <p>公演の告知をしたところ、望外に大きな反響を得ることが出来た。コントラバス関係者の方を中心に多くの方から、長汐壽治先生と日本のコントラバスの歴史について、興味がある、興味があるが情報がなく知ることが出来なかった、是非聴きに行きたいと言っただけ、そのような周囲の方々からの関心の高さを実感することができたこと自体が大きな成果となった。</p> <p>3月11日に開催した講演と演奏では、来場して下さった方々の多くから熱心な感想をいただいた。これは普段の演奏活動ではあまりない経験であり、演奏のみではなく講演も行ったことにより、この演奏会で伝えたいことがより明確に聴き手に伝わっていることを実感することができた。</p>	

※本様式に加え、補足資料として PDF ファイルや音声データ、映像データ等の提出も可。(必須ではありません)